



六 大中臣祓同註 おおなかとみのはらえおなしくちゅう

図書館所蔵・河野省三記念文庫一一六四号。写本一冊。線装本四ツ目綴。洪染縦縞文表紙。縦二六・六糎、横一八・六糎。料紙は楮紙。本文首葉に「大仲臣祓縁起」とある。題簽に肉筆で「大中臣祓同註」とあり、本文と異筆。書扉に「大中臣祓同註王城諸国建立」と「藤原朝臣御子大夫」の名がある。表紙見返し及び末丁表に「秀存」の署名があり、題簽と同筆と思われる。表紙見返し及び本文首葉に「紫雲文庫」（河野省三の文庫）の印記あり。墨付十三丁。

※ ※

本書は、中臣祓の注釈を中心として、多岐にわたる内容で構成されている。はじめに中臣祓の注釈である「大仲臣祓縁起」、四丁裏からは神武天皇以来平安遷都までの都の場所を列挙している「京立次第」、そして「地神五代」の記述から始まる神名列記や、神道書の目録なども収録されている。本書の成立年代は不明であるが、ここである程度の見通しを述べておく。伊藤聡氏が一部を翻刻されているが、本書には多くの神道書名がみられる。ここから本書の成立年代や、その他の中臣祓注釈書との前後関係を類推することができる。次に本文より引用する。

一 扶桑畧記百卷 百皇一卷ツ、
麗記十八卷

無題記上卷 神祇全一卷

仲臣祓ノ註一 是大師御作也

神代卷三 紫磨金山記三

遺誠記一 此三部ハ行基御作也

神代ニ付テ四重秘尺六 神代秘決一

賀茂空観上人御作也

ここに「麗記十八卷」や「仲臣祓ノ註」等の文字がみられる。「麗記十八卷」は『麗氣記』十八巻のことであろう。「仲臣祓ノ註」は「大師御作」であると記されており、空海作と仮託された『中臣祓訓解』もしくは『中臣祓記解』の可能性がある。『麗氣記』は鎌倉時代中後期の成立とされており、本書はこれらの史料よりも新しい室町時代の成立と考えられる。

(横山直正)

【参考文献】

- 河野省三『日本精神叢書 二十五 中臣祓と民族精神』文部省思想局、昭和十二年（一九三六）
- 伊藤聡「中世寺院における日本紀享受」『国文学解釈と鑑賞』六十巻十二号、平成七年（一九九五）